

平成29年度 社会福祉法人直源会事業報告書

まえがき

平成29年度は社会福祉法の改正があり、法人の組織が大幅に変更した年であった。当法人においても理事長、施設長の変更があったが、開設当初から築き上げた利用者が充実した生活を送れるよう、行事や生活の余暇を楽しんで頂くため尽力した。ただし、入所基準が要介護3以上に引き上げられ、医務の比重が高まる中、嘱託医が変更となり、新たな嘱託医と医務との連携が不慣れな事などの理由から、外部の医療機関の受診増や療養型等の医療機関への転院や、看取りによる退所が増え、平成29年度を通して入所利用率が安定しなかった。

本年度は、施設で2名の看取りを行った。内1名は施設内最高齢である105歳の方であった。

また、前々年度から課題として掲げてきた安定的・機能的な組織形成に繋げる人材育成については、介護分野における恒常的な人材不足の中、目指すべきサービス・役割を明確にし、実践を通じて各キャリアに応じた教育を随時実施してきた。

地域交流については、地域包括システム構築の社会背景の下、今後の社会福祉法人が担う重要な役割になるが、今年度も従来の地元の小・中学校等からの施設見学や交流に加えて、多くの地元住民と交流を図り、また、地域交流室を利用した地域包括支援センター主催の交流会等により、高齢者施設や福祉サービスの周知を図った。

インフルエンザ・ノロウイルス等感染症に関しては、職員研修を行い、職員一人ひとりの予防に対する意識レベルの高揚を図り、予防対応策を効果的に実践したが、インフルエンザ罹患者が利用者3名、職員2名感染してしまった。

サービス提供の面では、行事、クラブ活動、レクリエーション等の活動は本施設にとって他の施設に誇れる取り組みである。今年度も多くのボランティアの協力を得て、ご利用者様が、日々の生活で、季節感やゆとりや潤いを感じてお過ごし頂けるよう、多彩な催しを実施することができた。

平成29年度は納涼祭を野外で開催することが出来、限られたスタッフの中、従来にも増し、来客数も300人と多く、無事に終え楽しみを提供することが出来た。

食事面では、引き続き給食委託業者の持つ特殊技術により、食材の本来持っている味・栄養価をそのままに食事形態を選ぶことができ、施設生活での食事に対する満足度、栄養面を例年通り提供することができた。

ショートステイについては、これまで地道に築きあげてきた居宅介護事業所との信頼関係が功を奏し、各事業所からの高い信頼性と利用者の満足感も相俟って、昨年度に引き続き高い稼働率を達成することができた。

今後予測される消費税の引き上げや水道料の減免措置の軽減・廃止、並びに新設される介護医療院と特別養護老人ホームの住み分けなど、引き続き経営の安定化を目指すには更なる工夫が求められる年となった。

I 法人運営結果

1 理事会・評議員会の開催

- ・理事会の開催・・・・・・・・・・3回
- ・評議員会の開催・・・・・・・・・・1回

2 監事監査等の実施

- ・監事監査・・・・・・・・・・1回

II 施設運営結果

1 事業規模

<特別養護老人ホーム>

- ・長期入所 定員 110名
- ・短期入所 定員 10名

2 利用者支援実施状況

(1) 生活支援

ア 食事提供と食事援助

食事形態は主食を①軟飯②全粥③ミキサー粥④ゼリー粥とする。副食は①常食②ソフト食③ミキサー食④ゼリー食となっており、利用者一人一人の要望に適切に対応できる食事形態とした。

また、食事摂取については、利用者の食事摂取状況に応じて、特に誤嚥や嚥下機能の低下傾向に配慮しながら、食事の見守りや食事介助を行い、出来るだけ利用者個々のペースに合わせた経口摂取の維持に努めた。

イ 入浴介助

入浴は毎週2回を原則に行った。入浴の形態としては、個々の利用者の状態に配慮しながら、一般浴、座位式特殊浴槽、臥床式特殊浴槽などその人に適した浴槽を選定し対応した。利用者の重度化のなか、事故防止に心掛け、出来るだけゆったりと入浴を楽しんでもらうよう丁寧な介助に努めた。

また、羞恥心・プライバシーに配慮して、出来る限り同性介助を心掛けた。

ウ 排泄介助

個々の利用者の排泄習慣を適切に把握し、出来る限りトイレでの排尿・排便に取り組むこととした。なお、止む無くオムツを装着している利用者には、快

適な状態で過ごせるようにオムツの特性を把握し、交換時間・用品の選定等に配慮して、排泄環境の改善に努めた。

また、入浴同様に羞恥心・プライバシーに配慮した排泄介助を心掛けた。

エ 外出援助

天気の良い日は出来るだけユニットから出て施設内の園庭の散歩、近隣のコンビニへの買い物など外に出かける個別外出の機会を設けた。

また、イチゴ狩りや近隣のレストラン等での会食・お茶会など集団外出支援も積極的に行った。

オ 口腔ケア

適切な口腔ケアの実施は昨年度の大きな課題となっていたが、今年度は訪問歯科医師や歯科衛生士の指導・助言・研修を得て、技術面ではまだ十分とは言えないが誤嚥や誤嚥性肺炎の予防に向けて、その意義を理解し一定の取組ができたことは大きな成果であった。

カ 地域との交流

近隣小学校の社会体験の受け入れや相模台中学校支援学級の生徒の訪問など地域との交流を積極的に行った。特に、課題となっていた地元自治会との交流についても8月の納涼祭の開催に当たって、盆踊りの櫓の設置や祭り開催の回覧などに協力をいただき、このことを契機に多くの地元住民の参加を得ることができたことは大きな収穫となり、今後に繋げる契機ともなった。

(2) 健康管理

利用者が施設での生活を快適に送ってもらうために、次のような健康管理を行った。

ア 健康診断の実施

12月20、21日の2日間で利用者を対象に健康状態を把握し必要に応じて適切な処置を講じるための健康診断を実施した。

イ 看護師による健康管理

利用者の既往歴や現疾病の状況を適切に把握し、常に体調の変化に気を配り、必要な看護措置・病気の予防等に努めた。

また、利用者の服薬中の薬剤については、看護師が管理し、与薬介助にミスがないように心掛けた。

ウ ケアワーカーによる健康管理

利用者の日々の心身の状態を注意深く観察し、看護師との連携を図り、病気の早期発見に努め、早期治療に繋げることができた。

(3) 感染症等予防対策

今年度は、ノロウイルスやインフルエンザの流行時期が2回ある等、例年とは異なる対応を求められる年であった。予防に努めていたものの、インフルエンザ罹患はショート入所後に2名発覚したが蔓延することはなかった。

(4) 生活環境の整備

ア 居住環境の整備

ユニット内の整理整頓、危険物の除去、汚物等の衛生管理、また空調等の安全点検を行い快適な居住環境づくりに努めた。

イ 施設内に潤いをもたらす環境整備

正月の羽子板飾り、3月の雛人形飾り、5月の端午の節句の人形飾り、12月のクリスマスツリーなど利用者に年中行事や季節感を持ってもらうための取り組みを行った。また、棟と棟を結ぶ廊下に絵画を飾るなど、装飾面での空間づくりに努め施設内に潤いをもたらす環境を引き続き整備した。

4 会議・委員会等の運営

施設の管理運営、支援方針の統一、職種間の連携を図るために会議・委員会を定

例的に開催する。

項目	会議・委員会名	実施回数	実施状況
1	運営会議	12	業務全般に関する情報提供と施設運営に係る課題解決のための検討会議
2	リーダー会議	24	管理職という立場で利用者等の処遇に係る諸課題の解決に向けての検討協議
3	事故防止委員会	12	利用者等の処遇面での事故防止のための検討
4	身体拘束委員会	4	利用者等の身体拘束の廃止に向けての対応の検討
5	災害対策委員会	12	火災や地震等の災害に対する防災対策の検討
6	食事委員会	12	利用者等の食事提供の在り方及び行事食等の検討
7	行事委員会	12	施設の年間行事計画の作成や行事開催の検討
8	褥瘡予防対策委員会	12	利用者等の褥瘡予防に関する具体的な対策の検討
9	感染症予防対策委員会	4	利用者等の感染症予防に関する具体的な対策の検討
10	研修委員会	12	職員の資質向上に係る研修計画の作成及び研修の開催
11	安全衛生管理委員会	12	職場における職員の安全と健康の確保に向けての検討

5 職員研修

施設外研修・講習会等に職員を参加させ、施設職員としての専門知識・技術の向

上を図った。施設内においても研修委員会が中心となり専門の研修会を企画し実施することで多くの職員が、スキルアップに努めることができた。

<実施又は参加した研修>

研修の種類	研修内容
内部研修	<ul style="list-style-type: none">・口腔ケアについて（4月）・オムツ・パットの当て方について（5月）・感染症について（6月）・ターミナルケアについて（7月）・AED使用した心肺蘇生法、救急対応について（8月）・食事介助について（9月）・認知症について（10月）・感染症について（11月）・救急対応について（12月）・褥瘡について（1月）・事故・虐待・身体拘束について（2月）・特養について（3月）
外部研修	<ul style="list-style-type: none">・食品衛生について・災害時における管理栄養士・栄養士の役割・相談技術研修・褥瘡の基本・予防と栄養について・介護保険制度及び地域包括システムの現状について・実務者研修・集団指導講習会

6 防災計画

定期的に防災訓練を計画し、実施することで職員の防災意識を高めることができた

た。本年度は、特に有事の緊急連絡網の整備や的確に行えるかの訓練、消防設備の場所や使用方法の再確認、初期消火・避難誘導・通報の諸動作を相互に職員が連携協力することで訓練の成果をあげることができた。また、夜間を想定しての訓練で

は、①限られた職員数での対応②施設外の避難は夜間のため二次災害になること
③夜間に伴う必要な防災具の確認等を想定して訓練を実施した。

これらの訓練を通じて、職員の防災意識の向上と有事の際に適切に行動できるように努めることができた。

<防災訓練実施状況>

訓練実施日	訓練内容
平成29年12月5日	夜間想定避難訓練（夜間の火災想定避難訓練）
平成30年3月6日	昼間想定避難訓練（日中の火災想定避難訓練）

7 施設の運営・管理について

(1) 利用者の決定について

相模原市特別養護老人ホーム入退所指針を踏まえ、利用者は市民及び要介護3以上の者を優先して施設の入所判定会議において決定した。

(2) 指定医療機関（黒河内病院、相模原南病院、こぶち歯科医院）との連携について

利用者に対して適宜適切に医療サービスを提供するために、施設の嘱託医師と各指定医療機関と連携を図り、日常の医療的ケア・健康管理の充実に努めた。

(3) 苦情対応について

苦情解決責任者（施設長）並びに苦情受付担当者（相談員）は、あらゆる苦情に対して、誠意ある態度で真摯に対応した。苦情の内容によっては、施設が成長する大きな糧になるので、これにより施設として改善すべきことは、早急に取り組むこととした。

<平成29年度苦情受付件数と内容>

項目	件数
1 管理者の事故への対応・家族への対応について	1件
計	

(4) 家族会の開催及び家族との連携について

7月16日（日）に家族会を開催し、施設の課題や今後の取り組みについて説明する。内容としては、①理事長、施設長の交代②職員体制の変更③感染症対策④施設行事⑤経営状況などの説明を行った。

また、利用者の施設での日常の暮らしぶりをスライドで紹介し、梅ゼリー等を振舞いご家族同士や施設職員との懇親を深めてもらった。

なお、ご家族へは日常的に利用者の体調の変化、介護保険の制度改正や施設運営上の変更など適宜適切に情報提供を行い、ご理解を頂くよう努めた。

(5) 職員の健康管理及び労働災害の防止について

産業医による職員健康診断結果のチェックや職場巡視、また、毎月1回開催する安全衛生管理委員会では健康安全に係るテーマを設け職員の身体面・精神面での健康管理に努めた。

また、業務中に発生した災害については速やかに対応することができた。

8 医療・看護業務の実施状況

利用者等の日常の健康状態について、各ユニットの職員と連携し、情報把握に努め、身体的・精神心理的な変化や異常が認められた時には、嘱託医の診察や指定医療機関などの受診と合せて、家族に情報報告を行うなど、適切な対応を行った。

また、一昨年度から継続して、口腔ケアについては、歯科医師、歯科衛生士などの指導・助言・研修を得て口腔ケアや口腔衛生を実行することができた。

(1) 利用者等の健康管理

毎日の健康状態を把握し、服薬、常備薬等の管理及び往診、通院等の調整を図るなど利用者等の健康管理に努めた。

(2) 嘱託医による定期的な診療

- ・内科 週1回（月曜日の午後1時00分～午後5時00分）
- ・歯科 週2回（月曜日の午前9時～正午、金曜日の午後1時～午後5時）

(3) 感染予防対策

定期的に、また、職員入職時には感染症に対する知意識、吐物処理、手洗い・うがいの施設内研修を行い、感染症予防に取り組んだ。また、昨年同様、医療機関受診時等に、ノロウイルスやインフルエンザ等感染症への罹患を発見した際の窓口を一本化し、適切に対応することで施設内での拡大を防ぐことができた。

9 ケアマネジメント体制の充実

- (1) 介護保険法の趣旨に基づき、利用者等のニーズに向き合いながら利用者等の尊厳を保持、持てる能力を存分に発揮し、自立した生活を営むことができるように、個別サービス計画（ケアプラン、栄養ケア計画等）を策定し、この計画に沿ったサービスを提供した。

- (2) 各個別計画が利用者の日々の生活のなかで有効に機能しているか、評価・モニタリングを適切に行ない、個別計画の充実を図った。

10 食事（栄養・管理）実施状況

- (1) 「栄養ケア計画書」に基づき、利用者等の嗜好を考慮しながら、一人一人に見合った栄養管理に努めた。また、食事提供に際しては、季節感を持たせながら、個々の栄養状態、体調等も配慮した食事内容、食事形態をその都度提供できるように給食事業者と調整を図り、食事の工夫をすることができた。更に、こうした献立や食形態に工夫を凝らすことで、利用者の低栄養状態の改善や生活意欲の向上に繋げることができた。

- (2) 食中毒及び感染症の予防に関しては、調理場の衛生管理を徹底するとともに、感染症罹患者に対しては使い捨て食器等や配膳方法を工夫するなど調理場に感染拡大しないように予防を徹底した。

- (3) 食事時間（ショート含む）

朝食 8:00 昼食 12:00 おやつ 15:00 夕食 18:00

- (4) 環境整備

安全な食事提供をするために、調理場等の清掃・消毒を行うとともに調理員の衛生管理を徹底した。なお、ねずみや虫の駆除を年2回実施し環境衛生に努めるとともに、調理者の細菌検査（検便）を定期的（1～2回/月）に実施した。

- (5) 検食

施設での食事を評価するために、朝食、昼食及び夕食について検食を行う。

- (6) 非常食の確保

地震や火災等災害に備えて、利用者の食事提供を確保するために、非常食及び水を確保した。（3日分）

種類	水	米	缶詰
数量	360人分	360人分	360人分

- (7) 食事形態（平成30年3月31日現在）（ショート含む）

ア 主食

食事形態	米飯	全粥	ミキサー粥	ゼリー粥
食数	74	20	13	1

イ 副食

食事形態	常食	ソフト食	ミキサー食	ゼリー食
食数	75	25	6	2

(8) 栄養基準摂取量 (平成30年3月31日現在)

区分/栄養量	エネルギー	タンパク質	脂質	カルシウム
栄養摂取基準	1600kcal	60.0g	40.0g	—
栄養摂取量	1604kcal	61.4g	51.1g	657mg

11 利用者の状況等 (平成30年3月31日現在)

(1) 利用者数

区分		男	女	計
利用者数		30	71	101
年間	入所	6	22	28
	退所	10	18	28

(2) 利用者の推移

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	92.4	94.6	95.9	95.2	94.4	93.9	93.6	93.7	89.8	88.6	88.4	90.9
月末数	103	105	104	103	104	105	103	101	98	96	98	101
男	31	31	30	29	29	28	27	28	27	25	25	26
女	72	74	74	74	75	77	76	73	71	71	73	75

年間稼働率 92.6%

(3) 利用者の年齢構成

年齢区分	男	女	計
------	---	---	---

60～64歳	0	0	0
65～69歳	1	1	2
70～74歳	1	2	3
75～79歳	7	5	12
80～84歳	6	13	19
85～89歳	6	22	28
90～94歳	5	23	28
95～99歳	0	8	8
100歳以上	0	1	1

(註) 平均年齢 86.7 歳、最高年齢 100 歳、最少年齢 66 歳

(4) 利用者の介護度

要介護度	男	女	計
要介護1	0	0	0
要介護2	0	10	10
要介護3	12	25	37
要介護4	6	26	32
要介護5	8	14	22
計	26	75	101

平均要介護 3.6

(5) 家族等の面会状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	502	525	420	480	488	469	479	475	512	489	412	468
1日平均	16.7	16.9	14.0	15.4	15.7	15.6	15.4	15.8	16.5	15.7	14.7	15.1

12 短期入所生活介護（ショートステイ）について

利用を希望される家族の状況を踏まえ、居宅介護支援事業所とも連携を図り、
信

頼関係を構築するなかで、利用率の向上に繋げることができた。困難ケースの積極的な受け入れや継続的に利用してもらうことが稼働率の向上の大きな要因にもなった。ただ、継続利用者が本施設や近隣の類似施設に入所することで、リピーターの確保が難しく、新たな利用者の開拓に努めているところである。

(1) 利用者の推移

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	90.3	90.0	95.7	95.5	90.0	96.0	94.5	103.0	99.4	89.0	90.0	91.6
延人員	271	279	287	296	279	288	293	309	308	276	252	284
男	135	128	130	130	111	110	143	114	120	92	87	103
女	136	151	157	166	168	178	150	195	188	184	165	181

年間稼働率 93.7%

(2) 利用者の年齢構成

年齢区分	男	女	計
60歳未満	9	9	18
60～64歳	0	0	0
65～69歳	2	1	3
70～74歳	12	0	12
75～79歳	7	14	21
80～84歳	42	41	83
85～89歳	16	62	78
90～94歳	26	58	84
95～99歳	0	4	4
100歳以上	1	11	12

平均要介護度 3.2

13 その他の活動状況（年間実施状況）

施設では、様々な行事やボランティアの受け入れ、書道・華道・絵画などのクラブ活動、毎週開催される映画会（火曜日）、音楽レク（木曜日）、月に1回開催のビンゴ大会、お菓子販売、季節にちなんだ行事等多彩な催しに取り組んだ。また、近隣の小学校（双葉小学校）、中学校（相模台中学支援学級）との交流を図り利用者等にとって、施設での楽しい思い出となる機会を作ることができた。

毎月の誕生会、映画会（毎週火曜日）、体操レク（毎週水曜日）、音楽レク（毎週木曜日）、ビンゴ大会（毎月）、お菓子販売（毎月）、お花見、イチゴ狩り、端午の節句、菖蒲湯、母の日、父の日、宝探し、流しそうめん、麻溝台ふ

るさとまつり、納涼祭（地元自治会の協力を得て）、敬老会、運動会、作品展示会、焼き芋大会、柚子湯、クリスマス会、ケーキバイキング、餅つき大会、節分、甘酒茶屋、雛祭り、お寿司バイキング等

(2) ボランティア受入れ

音楽レク、書道、華道、絵画、納涼祭、焼き芋大会、体操レク等

(3) 施設訪問

地元小中学校（双葉小、相模台中）、遊歩の会、日本童謡の会の練習